

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年7月9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891900045		
法人名	有限会社 バディ		
事業所名	グループホーム けやき	ユニット名	A
所在地	〒300-1216 茨城県牛久市神谷1-14-13		
自己評価作成日	平成26年1月4日	評価結果 市町村受理日	平成26年7月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0891900045-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年2月26日	評価機関 決済日	平成26年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・家庭的な雰囲気の中で、ご利用者様、ご家族様と、スタッフとの信頼関係を築き、ご利用者様お一人お一人の思いを大切に、その人らしい「暮らし」が出来るよう支援しています。
・自治会、近隣住民、ボランティアなどの方々との交流やご協力、行事へ参加することにより、地域社会の一員であることを大切にしています。
・個の機能を最大限に引き出せるような、関わり、レクリエーションを目指し、日々職員同士のコミュニケーションをはかっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の目の前には大きなけやきの木が立っており、回りは畑に囲まれた閑静な住宅街の一角にあるため、利用者は日々穏やかな環境の中で生活をしている。
事業所の中庭のテラスにはテーブルと椅子が配置されており、利用者がお茶を飲んだり、自由に外気浴を楽しんだりしながら寛げるようになっている。
テラスの下には事業所の自家菜園があり、利用者と職員と一緒に野菜作りと収穫を楽しんでいる。
管理者は常日頃から利用者や家族等の希望や要望に耳を傾け、家族等の要望にそって花見やドライブなど、外出の機会を増やしている。
時には職員も利用者や家族等と一緒に外食や歌謡ショーを見に行き、家族等と利用者が一緒に楽しめる時間を大切にしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を、わかりやすい言葉で、フロアの誰もが見える場所に掲示し、実践に繋がるように努めています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、居間兼食堂に掲示している。 職員が日々各自で確認するほか、月1回開催される各ユニット会議時に再確認しており、理念に基づいたサービスの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア、自治会、近隣住民の方々と季節の行事のお手伝いや、避難訓練に参加して頂いたり、自治会の防災訓練に参加したりし、地域社会の一員として交流出来るよう支援しています。	自治会に加入し、利用者は職員と一緒に回覧板を届けたり、廃品回収を行い、日常的に地域の一員として交流している。 利用者は職員と一緒に年に1回自治会主催の地域防災訓練に参加し、模擬消火や防火水槽の見学をしている。 自治会からの依頼で、職員は地域住民に車いすの操作方法を指導している。 利用者は職員と一緒に市主催の「牛久わいわい祭り」に参加してお土産を買ったり、取手市にある福祉の里で行われた「手芸教室」に参加したりして地域の人々と交流をしている。 事業所の夏祭りやクリスマス会に地域のボランティアや民生委員が来訪し、行事食作りを手伝ったり、紙芝居や歌のボランティアが来訪したりするほか、定期的に絵手紙やシルバーリハビリ体操、フラダンス、ハワイアンダンスなど地域のボランティアを受け入れ、利用者が地域の人々と交流ができるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の防災訓練では、自治会の依頼を受け、車椅子の操作、移乗、介助の指導をする等行いました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成25年12月現在で25回を数え、様々な立場からの、助言やご意見をいただき、ユニット会議などで報告検討するよう努めています。顔見知りな自治会の役員より行事への誘いや、施設外でお会いしたときにも声をかけて頂けるようになりました。	運営推進会議は家族等の代表や地域包括支援センター職員、民生委員、区長、市内にある他法人の特別養護老人ホームの施設長、地域のボランティアで2ヶ月に1回開催している。 会議では入居状況や行事報告のほか、「事業所の会議室を地域住民のための会議や講座などを行う場所として提供することで地域との交流を図っては」という提案があり、出た意見等をユニット会議で報告して検討した結果、現在は地域のボランティアの会議の場として利用しており、利用者の外出時にボランティアの協力を得るなど、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問では、積極的に、ご利用者様のお話を聴いて頂けるように支援し、介護相談員からの「苦情・要望事例等対応連絡票」を職員で回覧し、話し合うなど協力しています。行政へは、積極的に不明な点などご指導いただいています。	管理者は市担当者へ積極的に向かい合ったり、電話連絡を行って利用状況を報告するとともに、長期入院していた生活保護受給者の退所の手続きの相談をするなど、日頃より積極的に情報交換を行っている。 月1回市の介護相談員の来訪時に介護相談員から提出される、「苦情・要望事例等対応連絡票」を基に職員で話し合うなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議で資料を配布するなどして取り組んでいますが、昼夜問わず幻覚症状が頻繁に見られ、服薬の調整などを行っている利用者様があり、離館、窓からの転落等生命に関わるとの判断から、玄関施錠、窓には身体が出ない程度の所でストッパーをつけさせていただいています。ご家族には、施錠に関する同意書をいただいています。また、これが一時的なものであるとすることを目標としています。	管理者は、身体拘束排除に関するマニュアルを作成し、月1回開催されるユニット会議で参加職員に身体拘束の内容と弊害について口答で伝達して日頃より身体拘束をしないケアに努めているが、全職員を対象とした内部研修を実施するまでには至っていない。 現在身体拘束の対象となる利用者はいないが、必要時に備えて「身体拘束に関する説明書と同意書」や「経過記録」を作成している。 昼夜問わず幻覚症状があり、離館や窓からの転落等の危険性がある場合には、やむを得ず玄関の施錠や窓には身体が出ない程度のストッパーが取り付けられており、家族等からは施錠に関する同意書を得ているが、解除に向けての取り組みはなされていない。	内部研修は身体拘束排除に向けた研修を含めて年間計画を立て、口答で伝達するのみではなく、資料を基に全職員が共有できるように実施し、研修記録を残すことが望まれる。 玄関の施錠及び窓のストッパーは身体拘束に該当するため、全職員で検討して解除に向けて少しずつ取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議で、資料を配布するなどし、再確認するように努めています。特に言葉の暴力など気を付けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援を活用されている、ご利用者様には、ご本人様に積極的に関わって頂き、不明な点は、その都度伺うなどの支援をしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談の段階から、ゆっくり時間を取り、ご説明させていただいています。契約の際には、十分な納得が得られるよう、時間をかけご説明させていただき、色々なお話を伺いながら、聞きやすい環境作りに配慮しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常中のご利用者様のお話や、家族会、運営推進会議、面会時などで得たご家族からのご要望に真摯に耳を傾け、ユニット会議や運営推進会議などで協議し、運営に反映しています。日常の世界との繋がりの要望を受け、積極的に外出の機会を儲けるように支援しています	玄関に意見箱を設置しているほか、利用者からは日常の会話の中で、家族等からは来訪時や年1回開催される家族会のほか、毎月発行される事業所便りに意見欄を設け、何か要望があればいつでも相談してもらえるよう促している。家族等から「外食や外出の機会を増やして欲しい」との要望があり、回転寿司に家族等と一緒に出かけたり、外出の機会を年3回から毎月出かけるようにするなど、出た意見等をユニット会議で協議して積極的に取り入れ、運営に反映させている。	事業所独自の無記名アンケートを実施し、家族等からより多くの意見や要望を汲みあげることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の会話の中から出る意見、要望を大切にし、ユニット会議などでも意見、要望の出しやすい環境作りに配慮しています。またそれらの意見、要望は会社役員に上げ、随時回答するようにしています。	管理者は月1回開催されるユニット会議で職員の意見や要望を聞いているほか、日頃から職員に声をかけてコミュニケーションを図り、職員が意見や要望を出し易い関係を築いている。職員の意見を取り入れ、脱衣所にプライバシー保護のためのカーテンや防寒対策としてエアコンを設置したり、真夏の居室の温度管理のために簾を取り付けるなど、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に伴う賃金アップ、スキルアップのための研修会への参加支援、希望労働時間、休暇の取得、会社役員とのコミュニケーションなど、職員がやりがいを持てる環境整備をしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じ研修会への参加、ユニット内での勉強会、研修報告による学習、現場でのトレーニングには経験のある職員が当たり行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議には、同業者の参加もあり、情報交換を行っています。同業関係者の主催する勉強会に参加し研鑽、コミュニケーションをはかっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始に当たり、ご家族から生活歴などの情報を得、なじみの場所、なじみの人になれるよう、ゆっくりご本人様の話を傾聴し、必要な時に必要な声掛けが出来るよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後の様子をきめ細かく報告、疑問やご要望も都度お答え出来ないことにも必ず後日回答しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査の様子、ご本人との面談、ご家族のお話を合わせ、必要な支援が行えるよう見極めるようにしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要な支援をしつつ、その人らしく暮らして行けるよう、会話や仕草から読み取れるようにコミュニケーションをはかっています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出、外泊を支援し必要な準備に協力しています。またできるだけご要望にはお答えできるように対応しています。生活歴やご家族との関わりを知り、日頃の会話にご家族のお名前を出すなどして、ご家族との関係を大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に了解を得たご友人などの面会、電話の取次などを行っています。また生活歴や要望に合わせて外出先を考えるなどの支援をしています。	職員は利用者の馴染みの人がいつでも来訪できるよう支援し、来訪時はゆっくり会話ができるようお茶を出して接待しているほか、友人や家族等からの電話を取り次いでいる。 職員は利用者が馴染みのスーパーで買い物ができるように付き添ったり、自宅や墓参りに行けるよう家族等の協力を得るなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の会話は困難な事が多い為、配席を考慮したり、職員が間に入るなどし会話がうまくゆく様支援したり、レクリエーションなどを通じ、共通の楽しみ、会話が生まれるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じ相談、支援を行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位とは何かをまず知り、介護者本位にならないよう実施しています。日々の暮らしの中の会話や行動、表情より希望、意向を把握し、ユニット会議や日々の申し送りなどで職員に周知徹底を行っています。	職員は日常の会話や関わりの中で利用者の思いや意向を聴いたり、家族等から情報を得ている。 会話や意志表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中で表情やしぐさから思いや意向の把握に努めている。 新たに得た情報は朝の申し送り時に確認し、申し送りノートに記録して全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の調査から、ご家族への聞き取り、ご本人様のお話などを合わせ、十分に把握するようにつとめている。また必要な情報に関して、その都度ご家族様、ご本人に情報を得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の記録の継続や職員の気づきにより、変化を読み取り、現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様ご家族様のご要望はもとより、職員の意見も取り入れ、介護計画の作成をし、毎月のユニット会議ごとにモニタリングを実施しています。また、ご利用者様の心身の状態の変化が生じた場合はその都度見直しを行っています。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れるとともに、職員の意見をまとめて計画作成担当者が作成し、職員が毎日記入する利用者の介護記録を基に、毎月のユニット会議でモニタリングを実施しているが、モニタリングシートに記録が残されていない。 長期計画は6ヶ月毎、短期計画は3ヶ月毎に見直すとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合には、その都度現状に即した介護計画に見直している。	モニタリングを実施した結果はモニタリングシートに残すことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に対しスタッフ間の情報を共有し迅速に改善、計画見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望、身体状況など踏まえながら外出の機会をつくっています。医療機関の対応なども臨機応変に対処し可能な限りニーズ沿うようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア様、自治会の皆様など本人に合った事を考えて下さり、充実した時間を過ごして頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回協力医療機関の医師による訪問診療を受診できる体制になっている。利用者、家族等の希望にそうかかりつけ医への通院や往診を支援している。受診結果は家族等に電話や便りなどで報告している。	月1回協力医療機関の医師による訪問診療の受診を支援しているほか、利用者や家族等の希望にそってかかりつけ医への通院や訪問診療を支援している。 家族等が対応困難な場合には職員が付き添っている。 受診結果はその日のうちに電話で家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の施設に看護師がいる為、医療に関する事などタイムリーに相談が出来、利用者に対する適切な対応、支援が行えています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報はすぐさま提供できる様整えています。また入院時、受診時には普段にも増して医療機関との対応を密にし関係づくりを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議、家族会などで課題に上がるが現段階では病院やそれなりの機関、施設などでの対応となっている。運営推進委員の中に講習を出来る方がいるので今後行っていく予定。	事業所では看取りは行っていないが、今後行う方向で検討しており、重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を代表者や管理者、職員で話し合っている。 重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を明文化したり、職員研修を行うまでには至っていない。	管理者は職員や医療関係者などと話し合い、重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を明文化するとともに、職員研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にて職員研修実施し内部研修。AED研修実施。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、近隣者協力のもと年2回防災訓練実施。出入口スロープ施工。自動火災報知機点検。緊急連絡網再点検。	避難訓練は夜間想定を含み、近隣住民の参加を得て年2回実施している。 避難訓練実施記録を作成し、訓練で明らかになった課題について全職員で話し合い、次の訓練に活かしている。 災害に備えて乾麺や飲料水を備蓄しているが、品目や数量の検討が必要と思われる。 備蓄品リストが作成されておらず、定期的に点検も行われていない。	災害に備えて備蓄品の品目を見直すとともに、リストを作成して定期的に点検することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様お一人お一人の個性やこだわりを把握し大切にして、人格、プライバシーに配慮した、声掛け配置に努めています。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めており、排泄時にもさりげなく声かけを行っている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる戸棚に保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自己決定出来るよう、また、しやすいような、問いかけ、話しかけなどの工夫に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様お一人お一人のペースに合わせて、心地良く過ごして頂けるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の身だしなみは、さりげなく支援を行い、外出時や来客時には、少し華やかにご本人のご意向を尊重し支援しています。毛染めやパーマにも対応出来るようになりました。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事ごとに合わせた献立や、何時もととは違う外出先での外食などの変化と、日常の職員が作る家庭料理を楽しんでいただいています。キッチンからの匂いに話を弾ませることもあり、ご利用者様、自ら後片付けを買って出ることが日常になっています。	生協で定期的に購入した食材から各ユニット毎に調理担当職員が栄養バランスを考えながらその日の献立を決めて調理をしている。職員は利用者と同じ食卓で会話を楽しみながら、同じ食事を一緒に摂っている。利用者は職員と一緒に食材の下ごしらえやテーブル拭き、食器洗いなどの役割を担っている。正月やクリスマス、節分、雛祭りなどの行事食を取り入れたり、回転寿司やファミリーレストランなどへ外食に出かけたりするなど、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量記録、声掛けを実践しています。定期的な血液検査、体重の増減の把握に努めています。職員に高齢者の脱水と水分摂取の必要性を周知徹底しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の受診を行って頂くと共に、毎食後必要に応じ、声掛け、見守り、仕上げ磨き、介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを記録し把握することにより、適切な時間に誘導出来るように努めています。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けて支援をしている。夜間オムツを使用している利用者でも、日中はリハビリパンツを使用し、声かけ誘導をしてトイレで排泄ができるよう支援することでオムツの使用量が少なくなった利用者もいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行などの運動、水分摂取、食物繊維が摂れるような食事の工夫に加え、主治医の指示に基づき、下剤などによる排便コントロールを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	声掛けの工夫を、お一人お一人に合わせて行っています。希望のある方は、できるだけ入浴出来るよう、拒否のある方も、気分を変えタイミングを見計らい行っています。入浴剤を変え気分転換も行っています。	利用者の希望にそっていつでも入浴ができる体制になっており、入浴チェック表を作成して最低でも週2回は入浴ができるよう支援している。 入浴を拒む利用者には声かけをする時間をずらしたり、職員を変えるなど、工夫をしている。 体調に合わせて清拭や足浴で対応している。 季節により柚子湯や菖蒲湯を取り入れて利用者が入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人に合わせた支援を行っています。ご自分でコントロール出来る方、フロアで過ごしたい方、居室で過ごしたい方、早くに休みたい方、薬や認知症の進行から、ご自分では眠りにくい方は繰り返し誘導しています。日中の過ごし方についても、アクティビティに過ごして頂けるよう工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時だけでなく、受診時でもできるだけご家族と同行し、的確に状況報告し、適切な服薬が処方して頂けるよう支援し、処方された薬に関しては、申し送りなどで職員に周知、経過観察を行っています。服薬の際には4回のチェックと確認表への押印により誤薬の防止につとめています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた壁の飾りなどは、できることをできる方と、それぞれに合った作業をしていたでいます。趣味にされていたことを、施設でも引き続き行って頂けるよう工夫をしています。廊下に写真を掲示したり、アルバムに残し見返すなどお話が弾むこともあります。昨夏作成した、花火のタペストリーは大きな成果を目の当たりに、皆さんとても喜んでくださっていました。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩ではその日のご希望に沿って戸外へ出かけていただいています。デッキでのんびり過ごしたりも自由にされています。ご本人様の日用品だけでなく、施設の買い物や、役所関係などにも同行していただいています。ユニットの皆さんでドライブに出かけることもあります、ご家族にも外出時は支援しますとの申し出もいただいています。	利用者は天気の良い日は事業所周辺を散歩して五感を刺激したり、季節の移り変わりを楽しんだりしている。 職員は利用者の希望にそって、事業所近くのスーパーへ日用品やお菓子などの買い物に同行している。 牛久シャトーへの花見や洞峰公園への紅葉狩り、霞ヶ浦の水郷公園へのドライブ、取手公民館に歌謡ショーを家族等と見に出かけるなど、外出の機会を積極的に取り入れて、利用者の気分転換が図れるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお預かり金として、ご家族よりお金を、施設でお預かりしています。その中から、ご家族に確認しながら買い物をしたり、外出時に使用させていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に確認しながら、外部からの電話の取次、掛けたいとのご希望があるときは掛けられるように支援しています。手紙のやり取りもご自由に行って頂いていますが、ご本人が難しくなっている所の支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに季節ごとの飾りをしたり、椅子には座り心地が良いように一人一人工夫をしたりしています。開放的な吹き抜けの天井からは明るい日差しが差し込んでいます。自由にデッキとの行き来をします。ご自分の居室前に、似顔絵があり、認識しやすい工夫をしています。	居間兼食堂は天井が吹き抜けになっているため、天窓から光りが差し込み、明るく開放感のある居心地のよい空間となっている。 中庭にはテラスがあり、テーブルや椅子が配置され、天気の良い日には、お茶を飲みながら気軽に外気浴が楽しめるようになっている。 テラスの下は自家菜園になっており、利用者が職員と一緒に野菜を育てたり、収穫をしている。 廊下の壁には外出や行事の写真、居間兼食堂の壁には利用者が職員と一緒に折り紙で制作した雛人形が飾られ、楽しい雰囲気の中で生活ができるよう配慮されている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファなどで、一人でゆったり出来るスペースを設けています。ご本人の意向に添えるように、支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご本人やご家族と相談しながら、馴染みの物の持ち込みをしていただいています。状況に応じ、ご本人と相談しながら配置替えのお手伝いをしています。ご家族の写真を貼るなどし、心地良く過ごせるよう支援しています。	居室にはベッドやエアコン、カーテンが備え付けられている。 利用者は整理筆筒やテーブル、椅子、テレビなど使い慣れた馴染みの家具のほか、時計や家族等の写真、ぬいぐるみなどを自由に持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人に応じた支援を心がけ、出来ないところへ手が届くよう、日頃から職員間のコミュニケーションをはかり必要な支援をしています。居室前には似顔絵や、目印を付けたり、日付の気になる方へ、職員の名前が気になる方へわかりやすく掲示するなど工夫しています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 グループホーム けやき

作成日 平成26年7月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	内部研修は身体拘束排除に向けた研修を含めて年間計画をたて、口頭で伝えるのみではなく、資料を基に全職員が共有できるよう実施し、研修記録を残すことが望まれる。 玄関施錠および窓のストッパーは身体拘束に該当するため、全職員で検討して解除に向けて少しずつ取り組むことを期待する。	・研修の年間計画をたて資料を基に全職員が共有でき、記録に残す。 ・玄関の施錠、窓のストッパー解除に向けた取り組みが出来る。	・7月中に研修の年間計画をたてます。 ・玄関施錠、窓のストッパー解除に向けた取り組み 1. 施錠等は身体拘束にあたり、解除の方向での取り組みの必要性の理解を得る研修 2. 職員の業務内容の見直しをすることにより、1日のうちでも少しずつ玄関の解除ができるよう検討する。	12ヶ月
2	10	事業所独自の無記名アンケートを実施し家族等からより多くの意見や要望をくみ上げることを期待する。	・無記名アンケートの実施によりご家族等からより多くの意見や要望をくみ上げることができる。	・6/14に家族会を実施したばかりなので、9～12月の間にアンケートを実施します。また、その結果を踏まえ随時対応できるよう致します。	6か月
3	26	モニタリングを実施した結果はモニタリングシートに残すことを期待する。	モニタリングシートを使用しモニタリングの実施と記録 1回/月	4/15より介護支援専門員により1か月に1回モニタリングの実施と記録をしています。	—
4	33	管理者は職員や医療関係者などと話し合い、重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を明文化するとともに、職員研修を行うことを期待する。	・重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を明文化する ・職員研修の実施	・7/1より医療連携体制加算導入、これに伴い訪問看護導入、重度化と看取りに関する対応に係る指針をそれぞれ整備致しました。 ・職員研修について(上記身体拘束排除に向けた研修を含め年間計画を7月中にたて実施いたします) 1. 資料を使って、朝礼、会議で管理者、介護支援専門員が講師となつての内部研修を行う。 2. 運営推進会議の委員で元看護師の協力者に講演を依頼しており、講師のスケジュール調整待ちの状態です。 3. 外部研修にも積極的に参加します。管理者、介護支援専門員は職員のケアに対する研修会にも参加していきます。	12ヶ月
5	35	災害に備えて備蓄品目を見直しとともに、リストを作成して定期的に点検することを期待する。	・備蓄品目の見直し ・リスト作成と定期的に点検(1回/月)をする。	・6/30備蓄品目の見直しの実施を行いました。 ・備蓄品リストは既に作成済、消費期限など必要項目をいれました。	—

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。